



美容外科医の心得3段活用; 怒られない、怒らせない、怒らない

福田慶三
Keizo Fukuta, M.D.

ヴェリテクリニック
Verite Clinic

■抄録

仏教では(むざぼり)・(いかり)・(仏教の教えに対する無知)を三毒と呼びます。怒りの感情は人の幸せな気持ちを破壊し、さらに周囲に拡散する猛毒です。患者が怒ると私たちの心は折れます。そして、私たちの中にも怒りの感情が生まれます。患者に対して怒った時には、すかつとした気持ちになるかもしれませんが、後からたいへん嫌な気持ちになり後悔します。美容外科医の目標は患者の満足を得ることと、自分の幸福です。そのためには、患者から怒られない、患者を怒らせない、自分自身も怒らないことが大切です。今回は、私の臨床経験に加え、先輩同輩の美容外科の先生方からの聞き取り調査を基に、患者はなぜ怒るのだろうか?私はなぜ患者に対して腹を立てるのだろうか?その理由を検討してみました。そして、怒りを治めるために私が講じてきた対策を報告します。

- 1985年 名古屋大学医学部卒業
- 1987年 Research fellow, Mayo Clinic, Rochester Minnesota USA
- 1889年 Research fellow, Institute for Craniofacial and Reconstructive Surgery, Southfield, Michigan, USA
- 1991年 Resident, General surgery, Providence Hospital, Southfield Michigan USA
- 1993年 名古屋大学病院形成外科 研修医
- 1995年 小牧市民病院形成外科 部長
- 2002年 愛知医科大学形成外科 講師
- 2004年 ヴェリテクリニック銀座院 院長